

**おいし図書館**  
No. 149

発行 おいし図書館  
代表 青木 和子  
松本市 東 1-104-406  
TEL 047-311-0886

投稿①

# 無人化

秋津那美子



私が長い外国生活から帰日したのは、30年ほど前の90年代の初めだった。のんびりとした人情厚い東南欧の国から戻ると、東京のまには、ちよつとした異文化のおどろきがあった。

省カ化を進めたJRのホームでは、アナウンスが録音だった。きれいだけれど特徴の無い女声で発音された単語を繁ぎ合わせたものだった。あのなつかしい独特の節まわりのアナウンスが消えていたのである。

私はこの疎外感に、なにか背筋が寒くなった。あー、人の関係がこうして機械に置き換えられると、まもなくこの社会は、心を病む人々でいっぱいになっていくだろうなあ、と。

当時、ロボットの開発が推奨されて、将来は病人や障害者の介護もロボットができる、おぼろしいことではないか、と語られていた。だが私は、こんでもないと思った。そんなことをしたら、治る病気や障害も悪化するぞ、と。本来、人が人に対応して行っていたサービスも、無機質な器具や装置・機械が代わってするようにになると、人は心を病むようになるのではないわ。

温もりが失せていく。

それから30年近くを経て、東京メトロ半蔵門線の車掌さんが定型の案内に加えて「お気をつけて行ってらっしゃいませ」「この先もお気をつけてお帰りくださいませ」など、オリジナルの一言を加えていることを、「癒し系アナウンス」として新聞が高く評価している。  
(2010年12月28日、毎日新聞ネクス版)

近頃では図書館でも、人に接すること無しに図書の前出しや返却をすることができるようになる傾向があるらしい。手間省きと言えはそうだし、便利と言えば便利かもしれない。だが、この間に進んだ、人の交わりを無化する経済合理至上主義の一環であるとしたら、怖いことだと思う。

(2011年3月)



投稿②



思い出の学校の図書館たち

山本光子

終戦の前年(1945年)に生まれた私にとって、記憶にある、初めての図書館は、松戸市立北部小学校の図書室である。子供の目には、かなり大きく見えた。職員室と同居で、入って左側に読書用の机と椅子があつて、それを囲むように「O」の字型の本立てに本が詰まっていた。

給食後の昼休みは、運動場で遊ぶことに忙しかつたので、図書室は、私にとって放課後の居場所だった。

私は、当時としては珍しい一人っ子の鍵っ子で、学校が終わったあと、人気の無い家に帰るだけであつた。母親が地域活動をしていたので、先生たちは私の家庭環境

をよく知っていて、下校時間がきて「蛍の光」が流れた後も、私が図書館に居残つていても大目に見てくれた。

私は、毎日のように「帰りなさい」と言われるまで、好みの本を手当たり次第に読んでいた記憶がある。ただし、はっきり書名を覚えているのは、ブーンキンの「大尉の娘」だけで、数年前、改めて読んでみた。恋愛小説ではあるが、若いロシア人の冒険譚でもあり、恋愛の部分は大して理解できなかっただろうが、冒険の話の部分は楽しんだと思う。

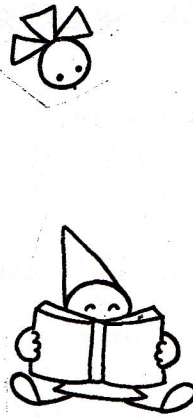
1960年に越境入学で入った都立高校には、左翼の教師グループがいた。我々生徒は、彼らから何かにつけて「お前たちはプチブルヘプチブルジョア」などの「態度がプチブル根性」などと批判されていたが、私個人とし

ては、自分のどこがそれに当たるのが、皆自分からなかつた。三年生のとき、我々のクラスの態度が、国語教師の目に「プチブル」そのものに映つたようだ。「お前たちのような者には、教える価値は無い」と、授業を拒否されました。数人が許されて授業を受けていたので、国語の時間は、彼らとその他大勢の二手に教室を分けていた。そのうち、我々は国語の時間中を図書室で過ごした。

図書室で騒いだという記憶は無い。各々好きなことをやっていた。私がブロンテの「嵐が丘」をじっくりと最後まで読めたのは、この授業拒否のお蔭であつた。

一ヶ月ほど、この状態が続いただろうか。結局、我々は親に説得されて、国語教師に、一人一人形ばかり反省することに打った。教師の方も、我々の「自己批判」を表向き納得して、一応、授業はク

ラス全員参加に戻った。  
卒業後に、本屋の店頭で、この  
教師の著作になる「現代高校生気  
質」(岩波書店)を発見。咄然と  
した。この本は、そのうちに読も  
うという本のリストに未だ入って  
いる。



### 図書館友の会全国連絡会

### 第五回総会

報告 青木和子

5月23日(月)、(社)日本図書館協会  
研修室において、第5回総会が開  
催されました。全国連絡会の会員  
数は、65団体、74個人で、計139。  
当日の参加は48名でした。

活動報告・会計報告・活動方針  
予算・役員選任が承認され、「私  
たちの図書館宣言」解説文の修正

自由討議が行なわれました。

総会に続いて、「図書館協議  
会の役割と可能性」のテーマで  
山口源治郎氏へ東京学芸大学教  
授の公開学習会として、講演  
と質疑応答が行なわれました。  
山口氏は「図書館協議会がど  
のような経緯でできたのか、図  
書館がどのように位置づけられ  
てきたか、東京の状況、図書館  
協議会が持つ可能性」などにつ  
いて話されました。

戦後、高い理念のもとで設け  
られた図書館協議会だったが、  
図書館の位置づけが低いことか  
ら、後には館長の諮問機関とな  
り、自治体の任意設置となりま  
した。現在では、協議会委員の  
選考方法として公募も取り入れ  
られるようになりました。

山口氏は、現在、国分寺市図  
書館運営協議会会長を務めてお

られる経験から、協議会のあり方  
や可能性についても話されました。

松戸市には、図書館協議会が設  
置されていません。

あれはよい、というものではない  
のですが、市民の意見を反映さ  
せるためにも、公募委員を入れた  
図書館協議会の必要性を強く感じ  
ました。

講演会の後は全国各地からの活  
動報告などがあり、閉会しました。

翌24日(火)は、片山善博総務大臣  
宛に「公立図書館の振興を求める  
要望書」を、高木義明文部科学大  
臣と笠浩史文部科学大臣政務官宛  
に「公立図書館、学校図書館の振  
興を求める要望書」を持参して担  
当者と面談。国会議員への要請行  
動も行なわれました。

次頁に「私たちの図書館宣  
言」と解説文を掲載します。

## 一 知る自由と学ぶ権利を保障する図書館

私たちは、図書館のさまざまな資料・情報から、読書の喜びを得ると共に、自ら調べ、考え、判断して課題を解決します。図書館の資料収集を制約したり、検閲したり、収集した資料を書架から撤去、廃棄することは、利用者の判断の幅をせばめます。どんな事実や表現も、制限されることなく図書館に蓄積されていくことで、後世の人々も、知る自由と学ぶ権利を保障されます。

## 二 いつでも、どこでも、誰でも、身近に無料で利用できる図書館

図書館は、赤ちゃんからお年寄りまで、図書館に足を運べない人も、通常の資料では利用できない人も、外国人も、誰もがいつでも利用できる「本と情報のある広場」です。身近な図書館を「無料」で利用できることが、教育・情報格差をなくし、住みよいまちづくりを応援します。

## 三 資料・情報が豊富に収集・整理・保存・提供されている図書館

資料・情報は幅広く豊富なほど役に立ちます。図書館には、世界を知る資料から地域や生活の最新情報まで、古今東西の叡智が、体系的に分類・整理・保存されていることが大切です。図書館は、私たち一人一人の読書の喜びのため、課題解決のためなど、さまざまな要望に応じて、より効果的・効率的に資料や情報を提供してくれるところです。

## 四 司書職制度が確立され、経験を積んだ館長と職員がいる図書館

潤沢な資料と情報があったとしても、必要な人に、必要とする時に手渡すことができなければ意味がありません。社会が複雑化し情報過多であればあるほど、収集・整理・保存・提供には専門知識と経験が必要です。職務倫理を備え、実務経験を積み重ねた職員、館長のいる司書職制度が確立した図書館が公共サービスを支え、質を高めます。

## 五 利用者のプライバシーを守る図書館

私たちがいつ何を読み、どう利用したかはプライバシーの問題であり、図書館は、業務上知り得た秘密を外部に漏らさないという責務を負います。利用者の個人情報はもちろん、どのような種類の資料・情報もプライバシーを侵害されることなく安心して入手、利用できる図書館が、個人の尊厳に配慮した成熟社会へ導いてくれます。

## 六 情報公開と民意に基づく図書館協議会が機能する図書館

図書館協議会は、よりよい図書館運営のために、利用者の代表が館長の諮問に応じるとともに、館長に意見を述べる大切な機関です。協議会が効果的に機能するためには、正確で公正な情報公開がなくてはなりません。市民の意思を十分反映できるように、開かれた図書館協議会を設置することが重要です。

## 七 教育委員会の責任で設置し、直接、管理運営される図書館

「図書館」は、法令上「教育機関」です。生涯学習の拠点である図書館は、さまざまな介入や干渉に左右されてはなりません。首長部局から独立した教育委員会において、公の責任のもと、直接、管理運営することで、中立性と公平性、専門性も継続され、市民の声が届きやすくなります。